

栄養指導における絵本の「読みあい」の効果に関する臨床的研究

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
小野 明子

目的：近年、筆者が行う栄養指導で、食事療法の実践と継続が難しい患者の事例が増えてきた。困難事例の多くは、栄養指導の教示を理解しているが、情動に影響され、わかっているのに食べてしまう。このような患者たちの援助は、従来の科学的根拠に基づく栄養指導だけでは行き届かない。本研究は、食事療法の実践と継続が難しい患者の「食べること」を援助する、新たな栄養指導のあり方について事例を用いて検証する。

方法：従来の科学的根拠に基づく栄養指導を受けているが、情動に影響されて必要以上に食べてしまう患者の「食べること」の物語とその意味を見出すために、絵本を用いた栄養指導の事例を検証した。

結果：自らの食欲を絵本の中に見つけた患者は、自身の「こころ」と「からだ」と「食べること」の関係に気づいた。また、絵本をきっかけに、患者の「食べること」の物語とその意味を見出すことができた。これにより、患者の食事療法の実践が動機づけられた。

考察：食事療法の実践と継続が難しい患者を援助する際、「わかっているのに食べてしまう」患者の悩みに取り組む必要がある。そのためには、患者の「食べること」の物語とその意味に着目した栄養指導が求められる。全人的な患者の援助には、従来の科学的根拠に基づく栄養指導と、患者の「食べること」の物語とその意味を理解する栄養指導の両方が必要であると考えられた。

結論：絵本を用いた栄養指導は、食事療法の実践と継続が難しい患者を援助する方法であることが示唆された。